

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	月一のリーダー会議及びモニタリングを利用し、各職員出席にて協議する。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	小学生による訪問事業及び運動会への参加。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いはもたれているが現実化されていないが一人暮らしの見守り支援として助成金交付し、また、虚弱高齢者及び身体機能障害を対象者として介護タクシー事業運営し、地域の交通機関として支援している。	○	一人暮らしへの支援及び安否確認などの訪問などを支援している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価で指摘項目について改善に努めている。緊急対応及び感染予防マニュアルなどの作成により対応の徹底化に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の間隔で行い、事業報告及び苦情及び入居者の状況等を説明し、意見を聞いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市社会福祉より衛生管理として口腔ケアの指導を受け、また口腔体操の取り入れにより嚥下等予防に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護について知っているが現状では行っていない為、改善していきたいと思う。	○	研修会への参加を計画している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜間中の職員体制を2名にし、常に複数で勤務できるようにし、虐待のない体制で対応している。	○	公的な研修に参加し、より幅広い視野で対応できるようにしていきたい。(検討中)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は十分に内容を説明し、ご家族及び本人の意思を尊重し、契約を結んでいる。契約前に家族及びご本人の方に体験入所などを進め、納得を得てからの契約としている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情対応として管理者が対応し、施設内には苦情箱を設置している。また、文面として内容及び対応については記載しております。内容に於いては運営推進委員会にかけ、討議するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>外部への苦情の連絡先等が重要事項に明記されておらず改善が必要である。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月家族への通信とし、ここの出来事を各職員の担当者の入居者の家族へ手紙を入れ金銭簿の写しと領収書を添付し、月々の一場面を写真に撮り送付しています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情があれば内容から解決までの状況を記載し、各職員に回覧し、またモニタリング及びリーダー会議で今後の対応などを話している。苦情については職員全体で解決している。また課題内容について同様の問題がおきないように周知させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月リーダー会議及びモニタリング会議に於いて意見を聞くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>リーダー会議で決まった内容をモニタリングで再度確認し各職員への対応を共有化していく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて職員(非常勤)に伺いをし、できるだけ柔軟な対応にしている</p>	<p>○</p> <p>各職員の都合もあり十分な対応ができないことも多々あり、また、労働時間数の加減も考えての対応となる為、充分とはいえない。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者に対し各職員は常に共通した対応とし、関わりを持つようにしている。また、離職される職員には事情を入居者に対し説明するようにしている。各職員と常に話できる体制をとっている。また親睦会などを開き相談しやすい場所づくりに努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の勤務内容になれさせる為、日勤の勤務を重点におき徐々に通常勤務を行い、2週間～3週間までの間、常に職員を配置させるようにしている。また各研修においては認知症の研修を受けるように勤務調整をして各研修の受けている。今後も各研修会への参加を率先して行えるよう検討している。	○ 各種研修に参加していくように検討中である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性もあり同業者との交流が無く現在は行っていない。	○ 検討を要す。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務体制により週休2日のシフトで行い、また親睦会などで職員との話を聞ける場所づくりに努めている。また夜勤体制を2名にし、不安を少しでも少なくしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の希望の休暇を取り入れた勤務づくり並びに勤勉手当の支給を踏まえ、常に職員とのコミュニケーションをとり楽しい職場づくりに努め能力を引き出している。常に職員の希望を優先し、勤務上、人員の配置を追加して対応して職員の負担を軽減している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居当初に本人の希望、望んでいることを聞き、計画に活かしている。月1回のモニタリングを開催し、事前に状況の変化を見て聞き、計画に反映させている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居当初事前に家族との相談し、聞き取り調査をしている。また家族の意向も踏まえた計画づくりを目指している。継続的に家族への聞き取りができておらずアンケートをして希望不満などの調査している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望及び要望にできるだけ近いサービスに心がけている。担当者が家族へ状況の変化などあれば連絡し、常に家族の気持ちになり入居者の介助にあたっている。また家族の問題に対しても対応しやすいように月に一度入居者の様子と手紙を添えて送付している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を取り入れ、家族同伴で体験していただけるようにしている。入居当初は、家族の宿泊(希望)により環境に慣れさせることと他の入居者(職員)との関係づくりを重点におき本人の希望(要望)ができるようになるまで様子を伺うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な環境づくりを目指す中で常に入居者と生活を過ごすため本人のできることは率先して行うように取り組んでいる。入居者に合った仕事づくりをするため職員が進めるのではなく、本人が自主的にできるように配慮し、また、本人が希望するものがあればできるだけ行えるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方々を招き花見会などを開催し、互いの意見交換のできる場を作り、楽しみの一つとしている。また日常生活に於いては生活の様子を月一回まとめて送るようにしている。家族の方々が多岐に多く、何かと集まりが少なく家族会も開設し、より家族との関係づくりを深めるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に状況の変化に対応した連絡調整と本人の希望を重視した観点から臨機に対応している。通院及び私生活内の変化に応じ、家族の意見を視点において対応にあたっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望により家族と連絡し調整し、できるだけ本人の希望に沿うように努めている。来所者(面会者)の時は自室でゆっくりと話ができるように配慮し、またリビング内の居間においてくつろぎの場所の提供と常にお茶の準備し、届けるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に利用者意見に聞き、納得の上で物事を動かすようにしている。日常生活での決まりごとなどを入居者と考え、また周知していただく為にそのつど伺いをし、また入居者同士が互いに支えあえる状況づくりに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	状況を聞く程度までの状況である。	○	施設及び他施設への入所状況及び面会などを行い、伺うようにしていきたい。(検討が必要)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活状況を家族から聞き、また本人の希望をできるだけ生活の中で反映できるようにいき、困難な場合は家族から話をし、いただき納得していただくようにしている。本人の希望によるもので対応できない内容についてはただできないと否定するだけでなく、理由を理解していただきなお希望がある場合は家族から直接対話していただくようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援経過の導入し、日常の生活及び計画に反映していくようにしている。介護支援経過ノートより計画の見直しを行うように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	D-4用紙の活用により日常生活の把握に努めている。	○	D-4用紙及び介護支援経過ノートの活用による。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	D-4用紙・介護記録経過ノートの活用により問題の解決を家族と相談し、承諾いただき計画に反映している。遠方の家族においては電話連絡にて承諾をいただき、また本人には口頭で納得するように努力している。また納得の得られない場合は直接家族と話をしていたようにし、できるだけ本人の負担を少なくしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングにおいて各職員で検討し、本人・家族に連絡調整し、また経過記録及びD-4を活用し、日々の生活に変化を見ていく。月1回のモニタリングとリーダー会議の中で重要な問題を検討し、解決に役立っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	D-4用紙の活用及び申送りにて日々の介護に役立っている。申送り及びD-4用紙・業務申送り・経過支援用紙を活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて管理者の指示のもと柔軟な対応にしている。組織体制を形成し、常に報告と連絡で柔軟な対応に活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	施設事業として地域の人材を活用してイベントに活かしている。敬老会・消防など地域の人材を活用し、事業に反映している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	常に事業者及び管理者と気付いたことに対し、話し合い持っている。	○	他のケアマネとの交流が少なく、また他の事業所も離れている為、今後の課題と検討していく必要がある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターへの情報提供のみになっている。	○	情報提供を緊密にしていくように検討課題である。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特別な病状以外はかかりつけ医で対応しており、平均2週間に1回の受診となっている。診療所・診療歯科と契約を結んでいる。また緊急時は三好市の県立病院で対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域性により多数の医療機関がなく現在は村内の診療所医師と施設職員との相談及び日常バイタルなどを確認し、また日々の生活状況を聞き治療にあたっている。また緊急時は県立病院への手配情報提供もしていただけるようにしている。	○	地域状況により専門職の医師・看護師が少なく医師の判断で治療をしている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域診療所及び県立病院へ問い合わせし、状況を相談している。	○	施設看護師の勤務を現在検討中。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に対し定期的に状況を見に行き、担当看護師に状況を聞き家族へ連絡し、家族からの要望を聞き病院との相談で話し合い対応にあたっている。家族が遠方の為、入院などの時は職員が付き添いし、定期的に衣類の洗濯物を交換に行くようにしている中で担当看護師と治療状況を聞き家族へ連絡などしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化に応じ主治医に相談し、家族に連絡し、今後の対応について医師・家族・管理者を踏まえ話し合いをするようにしている。各職員と状況に応じて相談し、介護状況の問題点などを話し課題をあげ、家族を交え医師・管理者の間で調整していくようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	契約書にも記載している中で医療行為ができないことと24時間の病院が遠方のことを踏まえて検討している。	○	検討中。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	基本として居室の移動はしていないが都合により移動をする場合は本人の事情及び家族の意見を踏まえてから行うようにしている。	○	本人の生活環境及び人間関係があり意思表示ができないことも考えられる為、家族の意見を重視し、または移る居室の近所との人間関係を踏まえ移動について考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に名字で呼びかけしており個人情報の書類は施錠付のロッカーに保管している。本人の行う事に対してできるだけ尊重して行えるようにしているが困難な場合は違った物へ興味を引くように話し、気分を損なわないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望に応じできる物できない物を判断し、やる気を損なわないようにし、短い時間で終了するようにしている。	○ 職員が付き添い(見守り)し、短時間で終える内容にし、日々できることを模索している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿う形で時間に余裕を持たせており、声かけで生活の流れを覚えてもらい昼夜逆転などの防止を行い、規則的な食事を行えるようにしている。日々の生活の中で個々に時間帯が違い、特に就寝時間などは視聴したい番組もあり声かけせず本人の時間帯で就寝している。また、日中においては声かけのみで入居者同士が声かけし、行動を共にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望の理髪店へ送迎し行くようにしている。ただし、遠方への者に対しては家族及び本人の納得のもと変更している。本人の希望日に合わせ臨機応変に対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理及び片付けについては希望者により自主的に行えるようにしている。調理については自主的に自分の好きな料理を利用者分作るようにし、味付け裁断・盛り付けまで行う。また食後の片付けは洗浄、食器拭きから片付け、床の掃除まで行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ・飲み物・おやつについては状況に合わせて日常的に楽しめるようにしている。	○ お酒については、病状の敬意もあり施設内での飲酒はしていない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿・排便チェック表でパターンを把握し、漏れないように声かけし誘導している。	○	プライバシーに配慮しつつ声かけしているが全てとは言えず、時に状況により配慮に欠けることもある。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間は利用者の意見を聞き決めているが状況により入浴は可能である。以前は毎日入浴をしていたが肌荒れを起こしたり体調を崩すこともあり利用者に意見を聞き行っている。また夏場は汗もかき希望によりシャワー浴をできるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	リビング内にはいたるところに休憩場所を作っている。また玄関前に休憩場所を設置している。至るところに椅子を置くことで利用者同士の話の場所となり日々集まり楽しく話している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味の一部として完成した物を展示し、また壁掛けとして施設内で飾っている。利用者の趣味活動に対して多様な支援をできるだけ行えるような環境づくりをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方は本人持ちとしているがその他の者は預かり金として担当職員が管理し、本人の希望時に渡し買い物などされている。通院日に買物のある方は行えるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出については、近隣になく希望に沿うことができず通院日に合わせて外出している。	○	近隣にショッピングを楽しむことのできる場所がなく車で40分程度の時間を要し、また受診も毎日のようにあるため希望に沿った援助ができない。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠距離の場合は家族の方に支援していただき、近隣については事業所に対応している。	○	地域内の場所に対してはできるだけ対応しているが遠方については家族に相談し対処していただくようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により行えるようにしている。電話の利用については利用者のほとんどが自室で話をされ電話番号のわからない者は職員がかけ、本人が対応している。また話しができない方は職員が聞き代弁している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	9:00～20:00までは対応できるようにしている。また来所者に対してはお客様としてお迎えし、利用者の都合により場所の提供と接待を心がけている。常に来所者に対し状況に応じた持て成しをし、利用者の気分で場所を合wash臨機応変に行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員がマニュアルに目を通し理解を深めている。事例集などの資料を基本にし、施設内研修を行い、身体拘束に対する意識を持っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全てドア・窓を開放している。ただ夜間については外部からの侵入者のことも考え施錠している。施錠について夏場は気温の上昇もあり夜間一部の窓は開放し室温を下げていく。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の巡視に対してはできるだけライトなど使用せず静かに伺い巡視を嫌がる方に対しては家族の了解を得て室内へ入らず確認のみにしている。また全ての入居者に対し巡視の了解を得て行うようにしている。夜間に急変などの防止の為に理解してもらえない利用者の方に対しては家族の了承を得て巡視はしていない。ただし、各棟に常に職員がおり確認を取れる状態にしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全ての利用者に対し施錠付のロッカーを完備しており貴重品などの保管をしている。事務所内に施錠の保管場所を置き管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全ての者に対し万全とはいかないが研修会などに参加していくように検討し、また施設内での研修も考えている。	○	地域の支援者により無断外泊時に対し連絡体制を取っている。火災に対しては、避難訓練及び消火訓練を行い対応している。薬に対しては全て職員が管理し自主的な薬は持たせないようにしている。転倒及び窒息に対しては常に配慮しているが研修との措置が十分でなく課題内容となる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応及び連絡体制はできているが、処置・応急手当などについても研修を受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所・緊急連絡体制及び避難訓練は行っているが近隣の協力が得られておらず課題内容である。	○	地域住民の高齢化が進み対応できない事もあり近隣の消防団に依頼するように検討している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況により医師を交えそのつど話すようにしている。(管理者から)医師・管理者・家族を交え、本人が一番良い生活環境とリスクの少ない生活が行えるように支援を目的にして考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック排尿管理・食事管理などを基本に考え、変化があれば即医師に確認し、受診するようにしている。常に各職員が日常の動作表情を確認し、異変があればすぐにバイタルをとり受診するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各病院から薬のレシピをいただき、利用者ごとに綴り、確認しやすくしている。常に変更した場合レシピをいただき、申送りで周知するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給と野菜を重視したメニューで肉・魚類を交互に振り分けた食事作りをしている。毎日の体操と一日2回の散歩、水分補給並びに野菜を重視した食事作りに心がけている。また医師に相談し便秘対策に役立てている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きを習慣づけし、また義歯に対しては取り外し洗浄ブラッシングするように支援している。また口腔指導員を定期的に活用し口腔体操とケアの指導を受けている。食事前の口腔体操により嚥下を改善し、歯磨きの指導とかの状態を診察していただくようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量及び食事量の確認を常に行っている。受診時にバイタル・食事量・水分量・排尿などのデータを医師に見せ身体の状態を確認している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	市の総合検診を利用し、毎年受診している。また時期的な予防接種を受けるようにしている。また感染予防マニュアルを作成し予防に役立てている。感染症マニュアルを利用し対応に努めている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に掃除を欠かせないようにし、布巾などは煮沸し衛生管理に努め、また食材に対しても買い置きなどせず短い周期で買物に行くようにしている。調理としてはできるだけ熱をかけた調理方法にしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには長椅子を置き、常に開放し、出入り自由になっている。また玄関内は利用者が作られた作品、また理念を掲げている。冬場は玄関は閉めているが夏場は常に開け、入居者また来客者などが自由に出入りできるようにしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにおいて畳の間に掘りコタツを置き、野外の様子が伺えるようにしておりテラス前は長椅子を置き、利用者が会話できる空間づくりをし、野外を見えるようにしている。至る所から野外が見え、また椅子を置きくつろぎの空間を作っている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室は一人部屋でありリビングの居間は畳敷きでコタツを置き、またテラス及び玄関に長椅子を置き、常に入居者同士がよく話の場になっている。施設全体に休憩できる場所づくりをしており、入居者同士が話しやすい空間を提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全て在宅で使用していた物を持ち込まれ、なじみの品を使用して生活している。基本的に入居前に家族に相談し、私物を多く使用することを進めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温・湿度計を各居室に備え付け、またリビングにも完備し、常にフロアの気温を確認し、温度調整をしている。基本は、リビング内温度調整にて各個室の温度を調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋造りでバリアフリーにしており、転倒を少なくし、また床面は弾力性も足した物を使用し壁には手摺を配置している。また至るところで休憩のできる場所を作っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室及び各部屋には名札やマークなどを要し、わかりやすくしている。個人名の名札を自室前に張出すことについては家族の了承を得て行い、よく間違ふ場所には常に工夫をし、できるだけ自分で行えるように心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周には畑また各自の花壇があり常に楽しむことができるようにしている。花壇は種植えからはじめ、常にお世話できるように散歩コースに作り、関心の持てるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)